

今月はICOの5月マーケットレポートに加え、トピックスとしてICOホームページから、エチオピアで開催された『第4回世界コーヒー会議で取り上げられたテーマの回想』と題したICO事務局長レポートの全訳をお届けします。



ロブスタの供給懸念からコーヒー価格は高かった

5月のコーヒー指標価格は4か月連続して上昇した。しかし、昨年のこの時期の価格と比較するとまだ低く、主にロブスタコーヒーの価格が安いことによるものである。4月の総輸出量は昨年同月比減少したが、これはブラジルの輸出が減ったことが主な理由である、しかし最近発表された同国の生産量予想によると今年のアラビカコーヒーの生産量は大幅に増えたが、ロブスタコーヒーの生産量は減ったようである。ブラジルの輸出が減少したということはブラジルの国内在庫が底をついてきているということを示唆しているもので、今年収穫されるコーヒーで今後1年間の同国の国内消費と輸出を賄わなければならないということでもある。

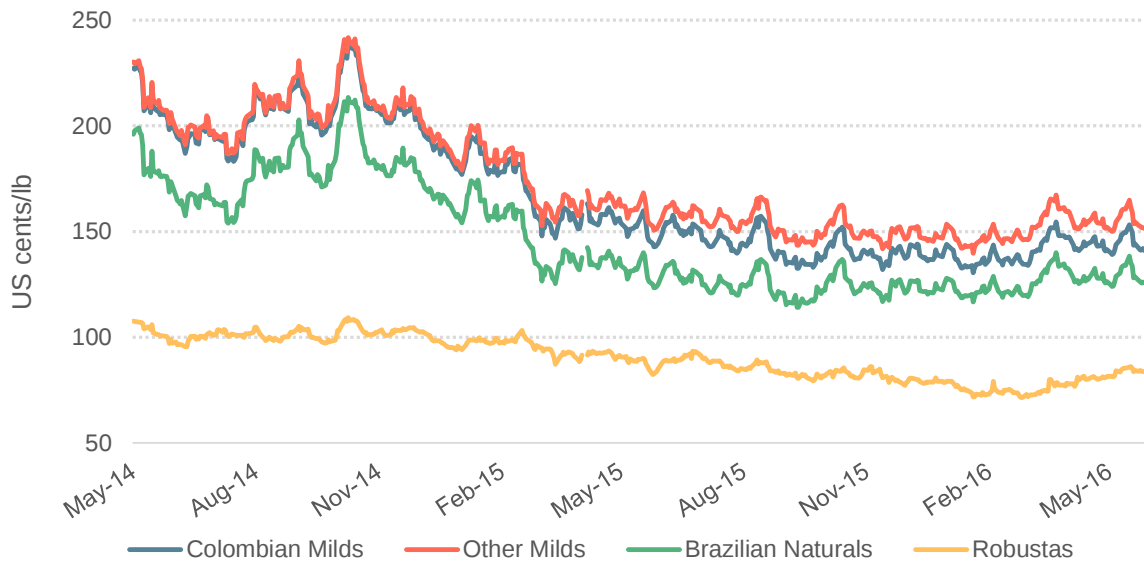
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

ICO日次複合指標価格は5月の初めから強含みで始まり、安値の115.68米セントから高値126.47セントまで月半ばまでに上昇した。しかし、その後この上昇分はすべて失い月末には118.14セントに戻った。しかし、月間平均価格は前月比1.7%上昇し119.91セントとなり、結果的に月間平均価格は4か月連続して上昇することになった。従いこの価格は今年になり最も高い価格ではあるが、昨年同時期に比べるとまだ低い水準である。特徴的なこととしては過去1年間、ICO複合指標価格は110セント～125セントの狭い範囲の中に納まっているということである。

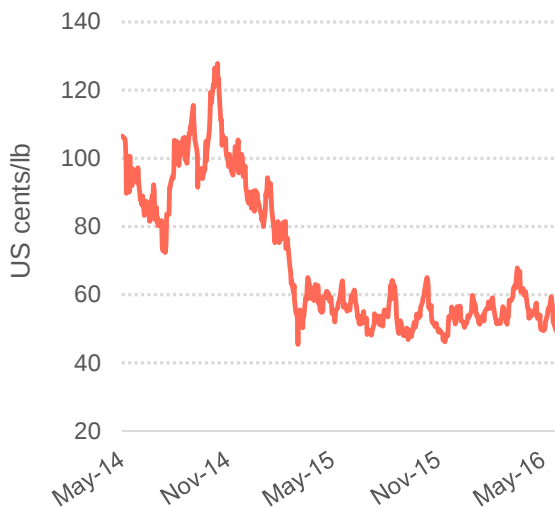
グラフ 2: ICO日次グループ指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グループ指標価格を見ると、ロブスタコーヒーはその強勢を維持しており、4月に比べ4.7%高い83.93セントを付け、この9か月の最高値となった。アラビカコーヒーの3グループは1%以内の上昇に留まった。結果として、アラビカコーヒーとロブスタコーヒーのアービトラージは2か月連続して縮小した。ニューヨークとロンドン先物市場のディフェレンシャルは5.1%下がり、この6か月の最小水準となった。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

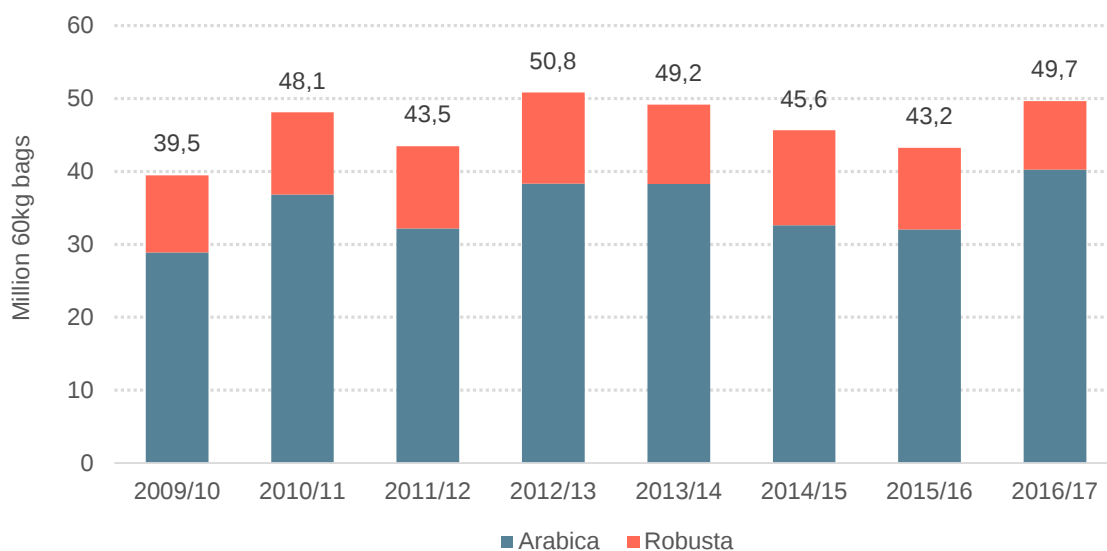
2016年4月のコーヒー総輸出量は推定9.3百万袋で、昨年同月に比べ8.1%減少した。これは主にブラジルの輸出量が減ったことが原因であり、同国の輸出量は25%減り2.4百万袋だった。これはブラジルの最近の驚異的な輸出攻勢を考えると、前収穫年度の同国の供給可能数

量はほぼ底を打ったということを示唆したものと思われる。この結果2015/16年度の最初の7か月（10月～4月）の累積輸出量は前年同期比0.7%増の65.2百万袋となった。ロブスタコーヒーの輸出量が少なかった分はアラビカコーヒーの輸出量増で相殺された。

ブラジルの公機関であるブラジル食糧供給公社（CONAB）は4月から始まる2016/17年度のコーヒー生産量見通しを発表した。生産量は1月に発表された第一回見通しの生産量幅の最小数値に近い水準の49.7百万袋だったが、それでも2015/16年度生産量に比べると14.9%の増産となっている。アラビカコーヒーの生産量は25.6%増え、40.3百万袋だが、これは同国のアラビカコーヒー生産量記録である。作付面積はほぼ変わっていないので生産性が向上したことによる増産である。一方、ロブスタコーヒーの生産量は9.4百万袋の見通しだが、これは前年度対比16%の減産であり、第一回見通しの生産量レンジの最小数値に近い数字である。この数字は過去10年間で最も少ない生産量であり、乾燥気候がいくつかのロブスタ生産地域に深刻な被害をもたらしたことによるものである。

もしこの数字が事実だとすれば、49.7百万袋というのはブラジルの2番目の生産量記録であり、もはや2014/15年度及び2015/16年度のコーヒー生産に悪影響を及ぼした干ばつの影響は受けていないということである。実際、米国農務省（USDA）は13%増となる56百万袋と、2012/13年度及び2013/14年度を僅かに下回る程の大幅な増産を予想している。しかし、ブラジルは今後一年間にわたりこの数量で同国の国内需要と輸出需要を賄わねばならないということである。

グラフ 5: ブラジルのコーヒー生産量 (収穫年度 2009/10 - 2016/17)



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
May-15	123.49	150.19	158.48	130.38	87.56	135.22	78.03
Jun-15	124.97	152.02	159.76	130.51	90.25	135.86	80.25
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
Nov-15	115.03	138.63	147.98	122.95	81.74	122.35	72.04
Dec-15	114.63	139.89	148.66	123.73	79.28	123.77	70.02
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
Feb-16	111.75	137.17	147.70	122.24	74.04	119.25	64.96
Mar-16	117.83	145.20	157.50	130.38	75.60	127.33	66.17
Apr-16	117.93	143.66	154.22	128.10	80.18	125.34	70.90
May-16	119.91	144.49	155.19	129.05	83.93	126.80	75.11
% change between May-16 and Apr-16							
	1.7%	0.6%	0.6%	0.7%	4.7%	1.2%	5.9%
価格変動率 (%)							
Apr-16	5.9	6.3	6.6	7.2	6.2	7.9	4.7
May-16	5.9	6.6	6.4	7.4	4.3	6.5	4.7
May-16 と Apr-16 の変化率							
	0.0	0.3	-0.2	0.2	-1.9	-1.5	0.0

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
May-15	-8.29	19.81	62.63	28.10	70.92	42.82	57.19
Jun-15	-7.74	21.51	61.77	29.25	69.51	40.26	55.61
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
Nov-15	-9.35	15.68	56.89	25.03	66.24	41.21	50.31
Dec-15	-8.77	16.16	60.61	24.93	69.38	44.45	53.75
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
Feb-16	-10.53	14.93	63.13	25.46	73.66	48.20	54.29
Mar-16	-12.30	14.82	69.60	27.12	81.90	54.78	61.16
Apr-16	-10.56	15.56	63.48	26.12	74.04	47.92	54.44
May-16	-10.70	15.44	60.56	26.14	71.26	45.12	51.69
May-16 と Apr-16 の変化率 (%)							
	1.3%	-0.8%	-4.6%	0.1%	-3.8%	-5.8%	-5.1%

* 第2限月及び第3限月の平均価格

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2012	2013	2014	2015	% change 2014-15
TOTAL	144 949	146 580	142 508	144 752	1.6%
Arabicas	88 184	86 997	84 686	84 635	-0.1%
<i>Colombian Milds</i>	11 523	13 488	14 571	14 853	1.9%
<i>Other Milds</i>	29 131	26 852	25 941	27 293	5.2%
<i>Brazilian Naturals</i>	47 530	46 657	44 173	42 488	-3.8%
Robustas	56 765	59 583	57 822	60 117	4.0%
Africa	16 668	16 271	16 109	17 129	6.3%
Asia & Oceania	42 554	46 452	45 676	47 906	4.9%
Mexico & Central America	18 595	16 615	17 436	18 462	5.9%
South America	67 131	67 243	63 287	61 255	-3.2%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	April 2015	April 2016	% change	October - April		
				2014/15	2015/16	% change
TOTAL	10 144	9 324	-8.1%	64 734	65 197	0.7%
Arabicas	6 134	5 879	-4.2%	39 420	41 998	6.5%
<i>Colombian Milds</i>	1 090	1 073	-1.6%	7 648	8 537	11.6%
<i>Other Milds</i>	2 256	2 389	5.9%	11 790	12 633	7.2%
<i>Brazilian Naturals</i>	2 788	2 416	-13.3%	19 982	20 828	4.2%
Robustas	4 010	3 444	-14.1%	25 313	23 199	-8.4%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	May-15	Jun-15	Jul-15	Aug-15	Sep-15	Oct-15	Nov-15	Dec-15	Jan-16	Feb-16	Mar-16	Apr-16	May-16
New York	2.41	2.43	2.38	2.36	2.28	2.15	2.08	1.95	1.82	1.76	1.62	1.58	1.53
London	3.02	3.12	3.35	3.43	3.43	3.37	3.35	3.31	3.23	3.04	2.92	2.78	2.64

単位：百万袋

表 6: 世界のコーヒー消費量

Calendar years	2012	2013	2014	2015	CAGR (2012-2015)
World total	143 348	148 003	150 339	152 149	2.0%
Exporting countries	44 441	45 445	46 494	47 292	2.1%
Importing countries	98 907	102 558	103 845	104 857	2.0%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

ートピックスー

第4回世界コーヒー会議で取り上げられたテーマの回想

ICO2016年5月27日、事務局長レポート

背景

1. 第4回世界コーヒー会議は、2016年3月6日～8日の間、『コーヒーの文化と多様性を育む』をテーマにエチオピアのアジスアベバで開催された。世界各国の大臣、大使、高官、民間部門代表、コーヒー農民、研究者など900人を上回る人たちが出席した。
2. 会議はこの大会のテーマに関係した様々なテーマに沿い7つのパネルに分かれ22人のパネリスト及び司会者が参加して行われた。添付資料1に全スピーカーリストを掲載した。
3. このレポートには夫々のパネルについての簡単なサマリーと議論から出てきた重要なメッセージを掲載している。後段では、ICOの今後の活動への意味合い及び世界のコーヒー産業の喫緊の課題についても触れた。この会議のスピーチ、写真、ビデオなどはICOのウェブサイト www.ico.org を参照して頂きたい。

アクション

加盟国はこの書類をテークノートして頂きたい。事務局は第4回世界コーヒー会議でのこれらの議論からICOの今後の活動に関していくつかのヒントを得たので、できればICO第117回理事会に提出を予定している戦略見直し草稿にそれらを反映したいと考えている。

パネル1： 多様性及び持続可能なコーヒー文化に向かって

このパネルの司会者はアフリカ開発銀行(AfDB)、性差別問題特命全権大使、Geraldine J. Fraser-Moleketi 女史が務めた。パネリストはラテンアメリカ、アフリカ、アジアから参加し、それぞれの国の多様なコーヒー文化及びコーヒー生産者が経済的持続可能性を達成するためにコーヒー関係者が解決しなければならない問題について話した。

重要なメッセージ

・持続可能性のテーマの中でよく見落とされるのが経済的持続可能性についてだが、これは議論するまでもなく最も重要なものである。即ち、もしコーヒー生産者が経済的に立ち行かなければ、彼らは継続的にコーヒーを生産し、社会的・環境的持続可能性を追求することなど出来るはずがないからである。

・農家の収入は価格に生産量をかけたものである。アフリカ農家の収入が低い主な問題点は公的技術支援（extension service）不足のため生産性が約 300 kg/ヘクタール(HA)と極めて低いことである。アフリカコーヒーの品質はずいぶん良くなっているが、これだけでは生産を持続的に可能にするには充分ではない。アフリカのコーヒー生産者にとっては生産性の向上が喫緊の課題である。

・コロンビアは生産性ではベトナム、ブラジルに劣るが、現在の 1000 kg/HA はアフリカに比べるとはるかに良い数字である。よってコロンビア農民の問題は収入の均等という意味での価格である。コーヒー生産者は高い利益を得るために高価格で売れる市場で販売できるよう品質を差別化することが慫慂されている。コーヒー価格は、国内コーヒー市場が大きく、たまに国内価格が輸出価格を上回ることもあるエチオピアにおいても重要関心事だが、輸出する方が有利であることは理解している。

・ブラジルは現在、持続可能な認証コーヒーとしては最大の生産国だが、最も大きな問題は小農家にいかにして持続可能なコーヒー生産の必要性を理解させるかということである。小農家の人たちは、持続可能なコーヒー生産の最大の受益者は自分たち自身だということを認識すべきである。持続可能コーヒー生産プログラムは全国で展開されており、全国の利害関係者（stakeholder）がこの企画にかかわってくれたおかげで、この考え方が広く受け入れられてきている。

・公的技術支援は、持続可能な生産者だと認められる為のお金のかかる認証制度に生産者が頼る必要がないように、全世界で強化されるべきである。持続可能なコーヒー生産を最も必要としている農家は、主にお金がないことで認証が受けられず、その特典を享受できない小農家である。政府及び地方農協は、全てのコーヒー生産者に持続可能カリキュラムなどを通じてそれらの情報を流し認証取得手段を与える為に重要な役割を担っている。

・世界のコーヒー生産者の中で圧倒的多数を占める小農家の問題に加え、持続可能なコーヒー生産を普及させる為の問題としては、認証を取得しても必ずしも（高く売れる）良質なコーヒーが生産される訳ではないという問題もある。持続可能な生産システムによりコーヒーの品質が改善されることが認証コーヒーの副産物（高く売れるもの）でなければならない。

・消費については、エチオピアと中国で国内消費が大きく伸びる可能性がある。エチオピアでは、最初に発見された当時から旅人を癒してきたように、ずっとコーヒーは国の社会的、文化的構造に組み込まれた国民の癒しである。一方、中国では逆のようで、コーヒー文化は、海外で勉強した後、帰国してもコーヒーを飲みたいという学生達と共にやっと始まったところである。

・バリューチェーンの全ての段階で女性を介入させることは極めて重要である。様々なプロジェクトで物事を決める際（特に家計財務管理）には女性の介入が有効であることは証明されている。ただし組織の幹部となると、例えばコーヒー農園では、女性は殆どの場合、日常仕事をこなすだけであり、重要事項から些末なものまで決定事項には関与していない。

パネル 2： 世界のコーヒー消費の傾向

このパネルは農業経済学者でコンサルタントでもある、**Demese Chanyalew** 博士が司会をした。パネリストは、様々な地域及び市場分野からの見方を紹介し世界のコーヒー消費及び将来の見通しを検討しながら、現在の世界経済状況下で、コーヒー需要が継続して成長するかを議論した。

重要メッセージ

・コーヒーのプラスイメージのお陰で、**2015** 年の世界のコーヒー消費量は **3%** 増加した。この傾向はアフリカ、中東などの新興国で著しいが、特に中国の今後の人口増加を考えた場合、アジアの成長は継続するだろう。

・コーヒー消費は次のような傾向のお陰で引き続き増加するだろう。即ち、ソリューブルコーヒー及び一杯取りコーヒーの消費の増加、省資源の考え方の浸透、様々なコーヒー抽出方法への世界的興味、若者の屋外消費習慣の家庭内持ち込みなどである。

・コーヒーの供給を脅かす問題には、気候変動、病気、貧しい農業技術（**poor agricultural practice**）、地方人口の都市移住、合併による企業の巨大化などである。この文脈でいうと、これらの問題を解決する方法は生産性を向上させるということに尽きる。ある研究によると、気候変動の結果として、コーヒー需要を満たす為には **2050** 年までに生産性を **4** 倍にする必要があるとのことである。気候変動の影響に対処するため現在アフリカでは農学者や農民の訓練を行っている。

・企業の合併は中規模のコーヒーメーカーにとっては脅威である、例えばコーヒー産業では **37%** のシェアが **2** 社により占められており、生豆価格を押し下げる圧力がかかり、小農家の価格交渉力を弱体化させている。

・品質の差別化は産地の生産者にとって高価格販売という形で価値を生み出すもので、生産者をさらに積極的にコーヒー生産に向かわせる。

・コーヒー農家にとり、もし認証取得コストが取り除けるならば、もしくはそのコストがコーヒーの買い上げ価格に含まれるならば利益は増えることとなる。

パネル 3： スペシャルティーコーヒーの傾向

Synergos 社の地域役員である Abera Tola 博士が司会をし、スペシャルティーコーヒー運動がコーヒー産業に与えた影響（特に農民の収入面での影響）について議論した。パネリストはスペシャルティーコーヒーの定義及びその将来についての見方を紹介し、特に最近スペシャルティーコーヒー傾向を強めるメインストリームコーヒーとの違いを継続できるかについて議論した。

重要メッセージ

- ・アフリカの小農家は、彼らがスペシャルティーコーヒー市場に関係することで何か良い変化があったかどうかということについては、はっきりしたことは解っていない。生産者が対面する市場はバイヤーの購買力が相対的に強く、常によりいい品を求める市場である。確かにスペシャルティーコーヒーは高く買ってもらえるが、それを生かすにはコーヒー農家は生産性を改善するしかない状況である。

- ・西側諸国の消費者は殆どがスペシャルティーコーヒーの自前の定義を持っており、生産者はそれを受け入れざるを得ない状況であった。例えば、今回新しい **Coffee Lexicon** (SCAA が新たに作成した香りの検査表を指している) が出てきたが、農民はこれにどのように対処したらいいのだろう。新しい専門用語が出てくる場合には農民を訓練し、彼らの理解力の向上に努める必要がある。

- ・何人かのパネリストは、公平なバリューチェーンを作るために様々な手段がとられてきたにも関わらず、未だに多くの制約が残されていると述べていた。パネリストは、現在のコーヒーの価格決定メカニズムはスペシャルティーコーヒーにとってはうまく機能しておらず、特に生産国に不釣り合いに負担が強いと指摘した。あるパネリストは、ニューヨーク先物市場は価格決定メカニズムとして破綻している、なぜならば過去 30 年間で増えたのは 100%ロブスタコーヒーとナチュラルアラビカコーヒーだったにも関わらず、この市場で取引されているのは水洗式アラビカコーヒーだったことによると述べた。

- ・政府が介入すること、開発計画に沿って融資方法が変更できること、自らコーヒーに高い価格を払い生産者に融資しようというバイヤーの気持ちが更に高まることが重要である。

- ・あるパネリストによると、全米スペシャルティーコーヒー協会 (SCAA) はスペシャルティーコーヒーの定義をバイヤーと農民の間でコーヒー生豆が売り買いされる時点でその生豆の品質に基づいて定義しようと試みてきたが、ヨーロッパは消費者レベルで定義してきた。しかし今日スペシャルティーコーヒーはバリューチェーンの川上から川下まで全体として見られるようになった、即ちバリューチェーンの全参加者のお陰で可能となったが、消

費者と農民の関係で定義されるようになったと話した。

- ・スペシャルティーコーヒーの定義として生産地までのトレーサビリティが最も重要なものとなった。

- ・商業（Commercial）市場では常に価格下落圧力がかかり、一方スペシャルティーコーヒー市場は大きくなり続けた結果、市場が 2 極分化した。パネリストはスペシャルティーコーヒーを育てるには全世界レベルで予算規模（marketing budgets）を確保する必要があると指摘していた。

- ・あるパネリストはメインストリームコーヒーがスペシャルティーコーヒーの傾向を受け入れ始めており、これは前向きないいことだと見ていた。1980 年代にコーヒー産業は消費者のコーヒー離れという問題に直面したが、スペシャルティーコーヒーがその解決策を与えた。即ちスペシャルティーコーヒーが全体的に総付加価値を増やしたということであり、コーヒー産業にとっては救いになったと話した。

- ・コーヒー産業において女性管理職を増やすいくつかの試みがなされているとは言えるもののまだ多くのことがなされねばならない。女性の活用については、主に生産サイドに焦点があてられ議論される傾向があるが、消費サイドにも多くの問題が残っている。あるパネリストはコーヒー産業でなぜ女性が活用されないか調べる必要があるが、性別に関係ない昇給制度の導入が重要だと話した。

・パネル 4： 気候変動とコーヒー

このパネルの司会者はラバツァ社役員の Mario Cerutti 氏だったが、このパネルとは別に、コーヒー及び気候変動イニシアチブ主催の会議も開かれた。パネリストはコーヒー生産にとり気候変動が大きな脅威であることから、これらを受け入れるための、また影響を軽減するための具体的方法について議論した。このセッションでは最新の研究成果や民間及び政府により新たに始まったイニシアチブについて話された。

重要メッセージ

- ・近年、気候変動がコーヒー産業の未来にとって最大の問題の一つになるということが統一見解として広く認められるようになってきた。コーヒー生産地によっては、豪雨や、長期の干ばつのせいでコーヒーの品質や生産量が落ちるという被害に直面している。このことはコーヒー生産者の、特に小農家の、収入が影響されるという点で、また高品質コーヒーの供給が、需要が増えているにも関わらず、減少するという点から非常に懸念される問題である。

- ・あるシミュレーションによるとエチオピアで現在コーヒー生産に適しているとされる広大な地域が、コーヒー生産が不可能な土地になるとのことである。また、同様にカメルーンの農民はすでに生産条件の悪化に直面しており、生産性が急激に落ちている。

- ・試行錯誤を通じ、気候変動の影響を減らす為には産地に適した対策をとる必要がある。例えば、シェードツリーの植樹は、特にアラビカコーヒーでは、高温ストレスを軽減するのに効果がある。品種を改良し抵抗力のある品種を普及することも重要だが、多くの場合生産システムの抵抗力を強化する為には、育成技術の改善を含むいくつかの方法を併用する必要がある。

- ・しかし、特にアラビカコーヒーの生産においては、厳しい被害を受けた地域で対策をこうじるだけでは限界がある。従い、生産地域をより高いところに移動させることが必要になる。地理的条件からエチオピアでは生産地を移動することは可能だが、他の地域でも全て同じことができるとは思えない。

- ・気候変動は世界規模の現象であり、皆で協調して取り組む必要がある。コーヒー産業の利害関係者（ステークホルダー）間で気候変動が与える悪影響についての認識が高まったことや、多くの研究成果が入手しやすくなったこともあり、民間部門や公的部門が対応策を取り始めた。例えば企業が主導したプログラムでは気候対応農業（**climate smart agricultural practices**）関連の技術移転を通じコーヒー農園の抵抗力を強化できた。結果は良好だったが、規模を大きくする必要がある。これらのイニシアチブは、気候変動受け入れ策（**NAMA**）及び気候変動影響削減策（**NAPA**）において政府の活動と境界を接してきている。パリ協定は更に多くの国が活動を強化するための重要な媒体（**catalyst**）になるだろう。

パネル5： 生産性を向上する為の技術革新及び公政策の役割

このパネルは開発、国際農業・生化学センター（**CABI**）理事長の **Dannis Rangi** 博士が司会をした。パネリストは生産性や生産の向上に貢献した最新の技術革新や研究について話し合った。彼らはまた近代農業技術の採用を促進した生産国政府の公政策についても言及した。

重要メッセージ

- ・需給の均衡あるバランスを維持するためには、コーヒーが増産されねばならない。2020年までには需要は増え生産増が必要になるだろう。

- ・生産性が高く疫病やさび病に抵抗力のある新品種の研究開発を促進すべきである。品種改良プログラムの開発及び国と世界の研究機関が密に協力することで 2022 年までに新しい

品種のコーヒーを作り出す必要がある。

- ・農民への技術移転問題は解決されなければいけない。この観点からいえば幾つかの先進生産国の技術・経験は共有されるべきである。いくつかの非政府組織イニシアチブもまた生産者が利益を得られるようなケーススタディーや教訓を開示する必要がある。

- ・公的技術支援はコストがかかるので、農民組織が小農家に対する先進農法・技術移転活動を強化することを推奨する。

- ・政府はコーヒー農家が自給自足の最低水準から抜け出すために支援をすべきである。これを達成するためには技術革新及び強力な政策支援が必要である。このようにして金融手段の獲得、技術移転、優れた農業技術(**good agricultural practice**)の利用を増やすことである。更に政府は、コーヒー農園に女性や若者の参入を促すことでコーヒー生産社会を活性化するための戦略をデザインする必要がある。

パネル 6： 持続可能なコーヒー産業のために性の平等を促進する

このパネルは女性コーヒー同盟 (IWCA) の副会長 **Jennifer Gallegos** 女子が司会をした。また、パネルに先立ちエチオピア民主共和国のファーストレディである **Roman Tesfaye** 首相夫人がオープニングスピーチを行った。どうすれば女性コーヒー生産者は男性が享受しているのと同等の経営資源や機会を得られるのだろうか。このセッションではパネリストは男女平等からくる利益を得るための可能な方法について話した。IWCA と国際貿易センター (ITC) の提携についても焦点を当てた。

重要メッセージ

- ・エチオピアでは約 20 百万人の国民がコーヒーで生活しており、その大半が女性である。多くの発展途上国では小農家が中心となりコーヒーを生産しているが、その労働力の大半は女性である。2015 年のアフリカ開発銀行の研究発表によると、エチオピアのコーヒー産業の労働力は 75% を女性が占めているが、女性が得ている収入は全体の 43% に過ぎない。

- ・コーヒーの過酷な労働から得られる利益を楽しむ権利の男女間の不平等は不釣り合いなほど大きくなっている。女性は、社会的、政治的、経済的な阻害から解放されない限り、すなわちコーヒーの加工、焙煎、輸出全てのバリューチェーンにおいて差別的制約がなくならない限り、経済的に権限が与えられたことにはならないだろう。

- ・現状を変更する為には、政府、民間部門、開発パートナーが、女性が積極的に政策作成及び戦略開発段階からこれらに拘わることが出来るよう、性差別を考慮した政策や戦略を立

て必要があるが、これには多面的でかつ全員一丸となって協力する必要がある。これを実現するには：

○公的農業技術援助、金融手段、土地所有について男性と同等の機会を女性に与える

○女性が、彼女たちが生産、加工、輸出するコーヒーの品質及び量が増えるように起業家精神、リーダーシップを養い、技術開発、訓練などの能力開発を行える為に投資する。

○コーヒー産業の女性間で協力できるネットワークを構築し、政策、戦略、市場の方向が彼女らの望むものとなるように主張でき、交渉能力が発揮できるような場（platform）を与える必要がある。現在、女性に直接コンタクトできるこのような場はわずかしかない、すなわちバイヤーにとっては彼らが購入しているコーヒーのサプライチェーンが女性に権限を与え男女平等を推進するための方策をとっている場は限られている。

○女性が競争力を増強し経済的利益を得ることが出来るように、広くて多様化する販売市場にアクセスできるようにする必要がある。これを実現する為には彼女たちが世界市場の要求を満たすことが出来るような政策面での支援が必要である。

○コーヒー加工製品の輸出における女性のシェアを増やすように努力する必要がある。

・多くの研究や、逸話的証拠、経済分析により小農園における女性の果たす役割とコーヒー生産量・品質との間に相関関係があることが示唆されている。更に、女性は家庭内で食事、教育、子供の為に男性より多くの時間を割く傾向があることも指摘されている。

・男女の役割のシフトを実現させるためには、女性に権限を与えること及び性差別をしない政策を採用することが重要である。例えば女性が容易に挑戦できるのは地方での政策決定である、何故なら彼女達は土地の分配、収穫農作物の選択や労働力の分配などについては既に現状を変えようと意見を主張している分野だからである。

パネル 7： コーヒー価格及びその乱高下

このパネルは世界銀行のシニアエコノミスト、**Roy Parizat** 氏が司会を務めた。パネリストは現在の市場の状況、特に低迷している世界コーヒー価格について議論し、コーヒー価格とその乱高下がコーヒー農家に与える影響についても考慮した。

重要メッセージ

・現在の市場の状況については、為替レートの重要性について特に強調された。世界コーヒ

一市場の中で全てのコーヒー生産者が同じように為替レートで影響を受けている訳ではない、即ち、例えばブラジル、コロンビア、インドネシアの生産者は対米ドルで自国通貨が減価している為、世界コーヒー価格下落の影響をフルに被っている訳ではない。これは生産者の生産コストがカバー出来ている農家もあればそうでない農家もあるということである。

- ・結果として、少数の非常に高効率の生産者が市場を支配することとなり、コーヒー生産は世界的に更に集中度合いが高まることとなる。このことはココア市場でも見る事が出来るように、価格変動率を高めるが、この傾向は気候変動で更に増幅される。

- ・近い将来を見るとコーヒーの需給バランスは大まかに均衡しているが、価格が上昇するとすれば、それは悪天候などの予測不可能な出来事が起こるか、為替レートが逆に（米ドル安に）動く場合である。

- ・消費については、需要は引き続き増加しているが、若い世代の消費者はこれまでシニア世代ほどコーヒーを飲まない傾向があり、コーヒーは他飲料とのシェア争いを余儀なくされている。

- ・価格変動を管理するという観点では、コーヒー生産者には確かにそのような手段は存在する、例えば先物を利用してヘッジ (hedging) することだが、これは常に有効という訳ではない、即ち時には益より害をなすことさえある。更に価格変動だけが生産者にとってのリスクではない、即ち天候リスクや生産リスクにも気をつける必要がある。

- ・公的部門は生産者がこれらを効果的に受け入れ発展させることが出来る。即ちエチオピアでは生産上流の精製能力増強投資をし、公的技術援助機関が手助けすることで増産に成功している。またホンジュラスでは大部分政府が介入することで生産量を飛躍的に伸ばしている。ただ、この方法は今のようにはコーヒー価格が安い状況下では無理だろう。

ICO の活動にとって意味するもの

過去にもそうであったように、世界コーヒー会議の結果は ICO のその後の活動に示唆を与えてくれた、そして今回はもっと明確に加盟国の要求に基づいて ICO が現在実施している『戦略見直し』作業にとってもヒントになった。パネルで分けるよりもここでの考察は ICO の活動領域に沿ってグループ分けしたい。従い、ICO が得たヒントを次のような広範な 4 つの活動分野に分類した。

i 情報及び研究

- ・ICO は更に情報や研究の収集量を増やし、統計データを流布することで市場の透明性を

向上させることが出来る。これは消費者、生産者双方が市場の傾向に適合することでコーヒー価格乱高下の影響を抑えることに役立つ。

- ・例えば生産コストを評価するなどして生産者の経済的持続可能性を研究することで、コーヒー価格が低いことで最も酷い影響を受けているのがどこかを特定できる。

ii 最高技量 (best practice) の促進

- ・ICO は、加盟国内のみならずそれ以外を含め、成功した新規構想 (initiative) の例を皆で共有するために最高技量体験を広く流布する手助けができる。

・この中にはリスク管理計画の情報も含むことが出来るが、例えばコーヒーセクター融資諮問フォーラムを通じて、気候変動の受け入れ手段 (NAMA) や影響の削減手段 (NAPA) などの情報を共有することも出来る。

iii 公・民提携の強化

- ・ICO は、そのコーヒーに関する卓越した政府間組織としての役割を考えると、政府部門と民間部門間の調整 (coordination) ・協力 (cooperation) を促進するための重要な役割を果たすことが出来る。

・そのような協力では例えば、公的技術援助 (extension service) という形をとることもできるが (歴史的に見てもこれが農民の生活を保障すること (farmer security) は証明されている)、総合コーヒー計画 (Global Coffee Platform) のような持続可能プログラムという形をとることも出来る。

・気候変動は世界規模で未来のコーヒー生産が直面している最も深刻な脅威であり、皆で協力して取り組むことが求められている。ICO は全てを集めこの問題を解決するために公・民提携 (Public Private Partnership) を促進する有利な立場にいる。

iv 擁護 (Advocacy)

- ・最後に ICO は男女平等や若者の就労問題を支持する為に重要な役割を果たしている。
- ・これは ICO の、プロジェクト、フォーラム、情報伝達など全ての活動において常に配慮されなければならない重要な問題である。

以上

パネリスト一覧

パネル 1：多様性及び持続可能なコーヒー文化に向かって

Mr. Abdullah Bagersh： アフリカ・ファインコーヒー協会（AFCA）会長

Mr. Fred Kawuma： アフリカコーヒー機構（IACO）事務局長

Mr. Roberto Velez： コロンビアコーヒー生産者連合（FNC）総裁

Ms. Jingya(lucy) Fu： 中国コーヒー協会（CCA）事務局長

Mr. Carlos Brando： コーヒー専門家（ブラジル）

パネル 2： 世界のコーヒー消費の傾向

Mr. Andrea Illy： イリカフェ社 CEO

Mr. Giuseppe Lavazza： ラバッツァ社副社長

Mr. Cornel Krummenacher： ネッスル社、赤道アフリカ地域 CEO

Mr. Philippe Jugalar： 農作物評価エージェンシー社（AVPA）社長

Mr. Barry Yuen： 香港スペシャルティコーヒー協会会長

パネル 3： スペシャルティコーヒーの傾向

Mr. Samuel Kamau： アフリカ・ファインコーヒー協会（AFCA）事務局長

Mr. Ric Rhinehart： 米国スペシャルティコーヒー協会（SCAA）CEO

Mr. Mick Wheeler： 欧州スペシャルティコーヒー協会（SCAE）前事務局長

Mr. Takele Mamo： イエルガチェフコーヒー農協組合、総支配人（GM）

パネル 4： 気候変動とコーヒー

Dr. Aaron Davis： 英国王室植物園キューガーデン、シニア研究リーダー

Mr. Michael Opitz： HRN 及びコーヒー&気候社、社長

Dr. Michel Ndoumbe Nkeng： カメルーン農業開発・研究所（IRAD）研究リーダー

パネル 5： 生産性を向上させる為の技術革新及び公政策の役割

Dr. Tim Schilling： 世界コーヒー研究所（WCR）事務局長

Dr. Joseph Kimemia： ケニア農業・畜産研究所（KALRO）企画・実績管理・品質管理室長

Dr. Vele Pat Ila'ava： パプア・ニューギニア農業・畜産局、局長

Mr. Paul Stewart： テクノサーブ社、コーヒーイニシアチブ地域役員

パネル6： 持続可能なコーヒー産業の為に男女平等を促進する

Mr. Robert Skidmore：ITC 社、市場開拓本部競争力部門リーダー

Ms. Emebet Tafesse：エチオピア輸出業者、世界女性コーヒー協会（IWCA）地域長

Mrs. Asnakech Thomas：アマルゴ・ガヨウ・コーヒー社、社長

パネル7： コーヒー価格及びその乱高下

Mr. Ermias Eshetu：エチオピア穀物取引所、CEO

Mr. Steve Pollard：マレックス・スペクトロン社、コーヒートレーダー

Ms. Judith Ganes-Chase：ジュディス・ゲイン・コンサルタント社、社長

Dr. Bart Minten：国際食糧政策研究所（IFPRI）シニア研究者（フェロー）

以上